



歴史博物館 昔あそび

・毎月第1日曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居を見ることができます。1日2回。公演終了後にはカタヌキのおまけもあります。毎月違う演目です！どんな演目か、見てからのお楽しみ♪

各回が始まる前30分間(①13:00～ ②14:00～)に昔のおもちゃで遊べる時間を設けています。けん玉や丸とぼしで遊んでから紙芝居をお楽しみください。

場 所：歴史博物館 1階 常設展示室

時 間：①13:30～ ②14:30～ (各回30分程度)



・毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様ができあがります。季節限定の紋様も登場します。折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以外の魚も…？

・毎月第3日曜日 火打ち石体験・お手玉あそび

火打ち石と火打ち金を使った火おこし体験です！ろうそくに火をつけられるかな？その他に、お手玉あそびもやっています。お手玉のいろいろな技を磨いてみよう！



・毎月第4土曜日 紋切りあそび

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：当日 館内の案内からご確認ください。

時 間：13:00～15:00

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

【入館】 無料、補助犬同伴可
車いす各館1台あり

【駐車場】 一般車30台

お体の不自由な方等の車両 各館1台あり
大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



考古・歴史博物館だより

第70号

発行 令和6年5月

市川考古博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-26-1

☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-27-1

☎ 047-373-6351

季節の展示「全力男子！」を開催します

歴史博物館が所蔵する資料を季節にちなんで展示する季節の展示「全力男子！」を開催します。

今回の展示では、娯楽の少ない時代、男の子たちは相撲や鬼ごっこのほか、めんこやベーゴマなど安価なおもちゃで遊んでいました。時が経つと日本の経済が良くなり、テレビ放送が一般的になると金属製の高価なおもちゃが登場し始めます。現代ではなじみの少ないおもちゃから、当時の子どもたちに何が人気だったのか、男の子の節句にちなんで飾り馬などともにご紹介します。

期 間：令和6年4月23日(火)～

令和6年6月30日(日)

場 所：歴史博物館1階 常設展示室



【当館利用者の皆様へのお願い】

- ・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- ・見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

古代下総国の国・郡・里 一下総国の範囲14

前回(『博物館だより』67号)の最後に『常陸国風土記』香島郡(『常陸国風土記』では鹿島を香島と表記)条に記される安是湖(あぜのみなど)についてふれた。その場所は、太平洋の河口から神栖市息栖あたりまでの範囲、地形では下総・常陸両国の陸地によって香取の海の幅が狭くなっている一帯の水域と捉えたが、この湖の下総・常陸両岸には、造船にまつわる地名や伝承が残る。下総国側には海上郡船木郷があり、船木は船の木を伐採したこと由来する地名とされる。現在の千葉県銚子市船木町、小船木町周辺に推定され、その場所はJR成田線椎柴駅周辺である。

常陸国側では、『常陸国風土記』香島郡条で古老の言い伝えとして、倭武天皇(『常陸国風土記』におけるヤマトタケルノミコトの表記)の時の説話として、造船にまつわる説話

が残る。説話は天の大神が鹿島神宮の神官である中臣氏の祖先に造船を命じる内容で、大神の命に応じて造船したところ、大神は船を海や丘へ自在おいたため、それを畏(おそ)れた神官の祖先は、長さ2丈(約6m)ほどの船3艘を大神に奉ったという。

当時の船は木をくり抜いた丸木船か、くり抜いた木を船底にして側板を継ぎ足して船の深さ増す構造であった。船を大型化するには、太くて長い幹の木が必要になる。船木郷はそういった木が伐採できる地域なのであろう。『常陸国風土記』の造船に関わる説話も、そのような用材の伐採が前提となっていた。安是湖を造船との関わりで考えてみることも必要である。

(つづく)

(考古博物館学芸員 山路 直充)



図1 流海と安是湖からなる「香取の海」船木郷と鹿島神宮
出典：岩波書店古典文学大系『風土記』付図(一部加除)

市川に残る合戦関係伝説① 里見弘次 ～姫の父親?美少年?～



【写真1】「弘次をまつる安房神社」

市内には国府台合戦関係伝説が多く残されており、その中で有名なものが里見公園の夜泣き石です。この夜泣き石の話に「里見長九郎弘次」という人物が出てきます。この弘次は姫の父親として出てきますが、中山の安房神社の由緒では第二次国府台合戦で亡くなった15歳の少年とされています。

里見弘次とは何者なのでしょう?実のところ、弘次が何者なのかは分かっていません。しかし、『葛飾記』『江戸名所図会』の安房須明神社(現安房神社)の項目では、正木大善の兄里見越前守行平の子、または里見義弘の兄弟越前守忠弘の子とされ、広次、弘継などと称されています。神社の由緒では、船橋の塩売りが草むらで蹴とばした髑髏が弘次のものであり、この髑髏を祀ったのがはじまりとしています。その他に、江戸時代の軍記物語『北条五代記』では「第二次国府台合戦の時、初陣の弘次を北条軍の武将松田左京亮康吉が討ち取ったが、まだあどけなさの残る美しい顔立ちに康吉は涙を流し、帰国後出家して弘次を偲んだ」とありますが、これは源平合戦の『敦盛』の話をもとにしており、松田なる武将も存在しないため創作であることが簡単に想像できます。

安房須明神社ははじめ中山の北池田(現中山小学校)に位置し、明治時代に中山小学校建設のため現地(夕日山)に移転しました。『市川の伝承民話』での聞き取り調査で、中山小学校建設の際、髑髏が出てきたという話があり、第二次国府台合戦時に北条軍が法華経寺に陣を敷いていたことが記された古文書が残されていることから、中山周辺が合戦に巻き込まれたことは確かなことでしょう。

里見弘次は不明な人物であるにも関わらず、市川の人々に知られていた人物です。市川市内には里見氏に関する伝承が多く残っており、『南総里見八犬伝』の影響とも考えられます。

(歴史博物館学芸員 山岸 未来)